



各務原ロータリークラブ

2024-2025 年度 国際ロータリー第2630地区 東海北陸道グループ

国際ロータリー会長 フランチェスコ・アレツツォ氏

(イタリア、ラグーザ・ロータリークラブ所属)

例会日 : 毎月第2・第4水曜日

場 所 : 各務原市産業文化センター2階

住 所 : 各務市那加桜町2-186

TEL (058)382-4649 FAX (058)382-4719

会 長 : 幹 事 : 星川 俊輔

副会長 : 松井 雅史 会 報 : 鈴木 佐千子

出席委員会 会員総数 39名(出席免除2名)

(2025.7.1 現在)

第2850例会

令和8年1月28日(水)

No.0789



~~ 卓話例会 (河野 春男 君) ~~

司会進行

会長挨拶

西条 継之 次年度幹事

松井 雅史 副会長

皆さん、改めて
ましてこんばん
は。今日もお集
まりいただき有
難うございます。
寒くなってきました。
皆さんご
存知の通り、僕
は検死の死体検
案で、ご自宅で
亡くなられた方

のもとへ行きます。昨日はとても寒かったので岐阜県
で15人亡くなられた方がいました。1人は免責の事
故の関係ですが、ほとんどが独居の方で冷たい所に
いて亡くなられたとのことです。お風呂とかでもそう
ですが、年明けから最近では週2回ぐらい警察に行っ
たりしています。若い方で60代ぐらいの方も結構見
えますので、十分気をつけていただきたいと思います。
ヒートショックもあるかと思うので、気をつけて
ください。

最後に次回理事会の議案にも挙げますが、地区資金の
地区賦課金1名あたりの年額が、現行19,730円が改
定後23,230円(+3,500円)に増額する旨のご連絡
が地区よりありました。3月のエレクト研修会で承認
を得たいという話ですが、多分何処のクラブも反対さ
れるのではないかと思います。特に各務原では山田さ
ん達の世代から会費を下げながら会員を増強してき
た経緯があるので、僕らのクラブとして賛成か反対か
の意見を持っていかなければいけないと思います。
次回2月理事会で、クラブとしての意見をまとめたい
と思いますが、多分他クラブも人数が減っている中、
割と高い会費でやっているの、反対意見が出るので
はないかと思いますが、報告事項とさせていただきます。

3分間スピーチ

横山 浩之 君

皆さん、こん
ばんは。今、非常
に政治離れが深
刻化しています。
山田さんと共に
このセンターを
預らせて頂き、
色々やっていま



すが興味を持っている人と持っていない人とで温度
差をすごく感じているところです。

それを少しでも政治に絡むような姿勢に取って頂くのが政治家の仕事でもあります。実際にそういう情態を作るのも、我々責任世代と言われる 30 代から 60 代だと思います。それをしっかりと若い子達に伝えられるのが、我々の責任なのではないかと感じています。綺麗事を言ったところで、事が進まない訳ではないですが、せつかく自分達に与えられた権利を、若い子達が使って頂けるような状況を作り出すのも我々の責任かと思っていますので是非『みんなで選挙に行こう』と声かけをして頂けると有難いと思っています。

話は変わりますが、9 月にアジア大会が開催されます。フィールドホッケーについては、岐阜県グリーンスタジアム（各務原市）で開催されます。今、男女合わせて 24 チームの予定です。是非、このオイエゲーと言われるホッケーを皆さんに盛り上げていただきたいです。各務原市出身在住のメンバーが今のところ 8 名選ばれております。近い場所での大会なので、雰囲気味わっていただくのもいいかなと思います。是非足を運んでいただいて、ジャパンのチームを盛り上げていただきたいです。



卓 話

河野 春男 君

本来なら今日、タン君が卓話の予定でしたが、明日論文の発表日だということで、僕が卓話をさせていただきます。私は、株式会社扇屋という会社を営業していますが、昔はよく焼鳥屋に間違われました。



ロック工事で、法面を専門にしています。今、業界ではインフラの維持管理が非常に課題となっております。岐阜県は、ご存知の通り森林と水に恵まれた清流の国です。この豊かな自然は私たちの誇りですが、同時に急峻な山や谷が多いこの地形は、大雨などの災害に対して弱点も抱えています。人口が減っていく中で、この広大な自然と私たちの暮らしをどう守り続けるかが、今日皆さんと一緒に考えたいテーマです。

ご承知かと思いますが、皆さんが日々使っている橋やトンネルの多くは、50 年くらい前の高度成長期時代に一斉に作られました。人間で言うと還暦間近、言わば定年を迎える時期です。現在建設から 50 年を超える橋は一部ですが、20 年後にはその割合が 60%に達します。一斉にガタがくる、そんな非常な状況です。

具体的な数字ですと、岐阜県の道路延長が県の管理で大体 4,200km、橋梁は 1,856 橋 (15m 以上)、トンネルは 176 本。老朽化の進展に関しては、15m 以上の橋で 356 橋は 50 年以上。10 年後にはそれが 40%、20 年後には 60%になります。トンネルも同様に 15%が 50 年以上経過していて、20 年後には半分が老朽化していきます。

壊れたら直せばいいという訳では無く、皆さん記憶にもあると思います山梨の笹子トンネル事故や、各地の道路陥没、そして記憶に新しい辰巳で発生した道路の崩壊事故。更に関東でショックだったのが埼玉県八潮市の道路陥没事故は記憶にも新しいかと思いますが、これらは決して他人事ではなく、ここ岐阜でもいつ足元で起きてもおかしくない事例です。

もう一つ、静岡県熱海市の大規模土石流の件です。不適切な盛土が崩れた人為的な災害で、自然災害とは違いますが非常に不安定なところがあります。

具体的な話で行きますと、2012 年の笹子トンネル事故について。



笹子トンネルの構造を示した断面図



この事故を契機に、国から県まで全部一斉点検が行われ、5年ごとの定期点検が法定化されました。

2012年に起きた事故で被害者は9名、負傷者2名。

トンネル天井の換気ダクトに取り付けられている重さ約1.2トンほどのコンクリート板およそ270枚が、老朽化とともに138メートルにわたってV字型に折り重なるように崩れ落ち下を走行中の自動車3台が下敷きになり亡くなったという事故です。予測不能な事故で、非常に大きなインパクトを受けましたし、点検のきっかけになりました。

次に去年、東広島で起きた道路の大規模陥没事故。



そして、八潮市の道路陥没事故について。



陥没した中に2トントラックが入り込み、運転者1名が死亡した事故です。地下10メートルにある下水道が、下水から発生した硫化水素が空気に触れて硫酸になったことで管を溶かし、腐食した箇所が陥没し空洞が出来、更に

下水道管から水が漏れて土石が流れ空洞が出来、だんだん穴が大きくなっていきました。地盤が空洞化していて、ある日突然ドーンと落ちてしまった。これにより消防隊員2名が負傷。これは未だ復旧が完全に終わってなく5、6年かかるという話です。

次に昨年11月、岐阜県多治見市脇之島町の愛岐道路で山の斜面が崩れ、大量の土砂が道路をふさぎました。大きな岩が、落石防止のフェンスをなぎ倒し、路上に落下しました。巻き込まれた車やケガ人はおらず、人的被害はありませんでしたが、車がいたら確実に亡くなっています。



この様に皆さんが普段走っている道路や橋、トンネルなどは、危ない要素が沢山あり、実際点検などが行われていなかったら、いきなり災害が起こる可能性が高いということです。特に斜面、トンネル等は点検する技術が非常に発達しており、強量も含め大体分かるようになっています。でも斜面は山の中の話なので、正直分かりません。今は、ドローンを使ったり様々な方法がありますが1兆円するなど、課題となっています。従来の道路管理の仕方は、例えば『崩れたよ。じゃあ直しましょう。』と、事が起こってから直そうという事後保全が、今までのやり方です。

これからのやり方は、予防保全と言い、設備を定期的に点検し、悪い部分を早めに補修して寿命を延ばすやり方です。こうした取り組みで、ライフサイクルコストを下げながら長く使い続けることを目指し、これをインフラのアセットマネジメントと呼びます。

岐阜県は総延長4200kmと全国6番目に長い道路網を持つため、点検への意識や管理体制づくりに全国でも早く取り組んでいました。

また岐阜県が笹子トンネル事故前に取り組んでいたのが、適切な維持管理を行うための技術者を育成する技術者集団として、社会基盤メンテナンスエキスパートという制度を導入していました。

これは維持管理や点検方法を岐阜大学で1か月学び、試験に合格した人に与えられる資格で、この資格を持つ人は点検の理屈や危険箇所の判断ができるため、より適切に異常を見つける事が出来るのです。社会基盤メンテナンスエキスパートは多くの人材が必要な資格で、県が管理する施設だけでなく、市町村レベルでは特に負担が大きく、また外部委託に高い費用がかかるため、各務原市では市職員が点検できるよう毎年1〜2名を講座に送り、資格保有者を増やしています。こうした取り組みにより、予防保全を主体とした維持管理が今後の基本的なやり方になっています。

岐阜県は、山岳地帯で川も多く土砂災害の危険性が結構高い所です。そこでハード対策とソフト対策というのがあり、災害対策において相互に補完し合う関係にあります。効果的な防災には、両者を組み合わせて実施することが重要です。地域の特性やリスクに応じて、適切な対策を選択することが求められ、ハード対策で物理的な設備や構造を用いた災害対策を行い、ソフト対策で情報や訓練を通じて対策を行い、災害時の被害を最小限にしようと動いております。

各務原市でも鵜沼宝積寺山地内にある大塚山緑地で、のり面上部に亀裂が発見され、我が社で法面对策工事をやっています。施工しながら歪みや法面にセンサーを付けており、山がぐっと動いたら警報が鳴る様になっています。1ミリ2ミリの動きを計算すると、何時頃に崩れるかが分かり、計算が出来るのです。

以前、東海北陸道的美濃インター付近（福井・岐阜県堺付近）の大規模斜面崩壊シーン。あれは何故撮れたかと言うと、崩れる事が事前に分かっていたからです。だから通行止めをして、カメラを構えて「もうすぐ来るぞ！」で、崩れました。今はそういう技術があるので、その技術を利用して皆さんの生活が守られている事を実感して頂きたいと思います。

法面のような専門分野には業者ごとのノウハウがあり、道路・トンネル・橋梁などは総合土木業者が専門知識を持つため、インフラ維持管理には“医者”のような専門性が求められます。しかし今後は人手不足で現場に登って点検することが難しくなるため、ドローンや赤外線、AIを組み合わせた遠隔点検が重要になる一方で、過去に施工したトンネルなどの図面が残っていないケースが多く、構造や工法が分からないことが大きな課題となっています。

例えば20年前に造ったような10億円ぐらいかけたトンネルでも、当時の図面が残っていないケースが多いのです。紙図面やマイクロフィルムは膨大で、役所が全てを長期保管するのは難しく、多くは10年ほどで廃棄されてしまい、その結果トンネルの構造や法面の工法・間隔などが把握できず、維持管理上の大きな課題になっています。

岐阜県は岐阜大学が非常に積極的に関与してくれているため、それらを踏まえると今後は、産・官・学が連携し、土木業者・行政・岐阜大学が一体となって対策を進めていくことが今後ますます重要であると思います。

最後にまとめですが、持続可能な清流の国、岐阜のために、先ず予防保全として早めの手当てで安心とコストを流出させる。これからは最新技術、AIやドローンを使って、効力強く安全を守る。ソフトもハードも大事で、それらを合わせて災害に強い地域づくりをしていくことが更に大事です。次世代へ手渡す美しい故郷を守るために、皆様のご協力とご理解をお願い申し上げます。

